

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472202306
法人名	有限会社 HANA
事業所名	グループホーム葡萄畑
訪問調査日	平成20年11月20日
評価確定日	平成20年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472202306
法人名	有限会社 HANA
事業所名	グループホーム 葡萄畑
所在地	251-0042 藤沢市辻堂新町2-12-34 (電話) 0466-63-8787

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月27日

【情報提供票より】(平成19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 4人, 非常勤 11人, 常勤換算 10.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	46,150 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤沢御所見病院、勝俣内科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

オーナーである施設長(開設者)は古い住人の一人であり、ホームの隣に自宅がある。ホームが建っている場所は祖父の代には葡萄畑があった場所でホームの名前はそれに由来している。建物は2階建てで1Fに2室、2Fに7室の1ユニットである。3F部分は屋根裏で収納スペースとなっている。この最大の特徴は建築に対するこだわりである。余裕のあるスペース、木にこだわった造作、大きな床の間を思わせる小上がりの和室、広い周辺の庭などの余裕のある作りで、これらが個性の自由な発揮を助長している。広い周辺の庭ではご家族を巻き込んで一緒にバーベキューパーティを楽しむなど行事を行っている。昨今では地域と云うキーワードでの連携が難しい状況となっているので、切り口を「高齢化」に置き、「人と繋がる」ことで、連携の発展性が生まれ地域への発信が出来ると考えて進めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ここ1年間に取り組んだことは職員の安定的確保の問題である。基本的にはこのホームに合った職員の定着であり、それには時間が必要である。紆余曲折し、管理者も4回交代し、職員の交代があって現在の安定がある。シフトについても、職員の確保が難しい中で、人それぞれの希望の勤務帯に併せたローテーションにより、人間的に評価出来るスキルを持った職員の活用に心がけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、こう云う観点で外部評価は見ていることをの理解をしてもらう意味を含めて全員に記入してもらっている。但し、管理者でない項目も多く、記入していない項目もあった。この自己評価をサマリーして自己評価を作成した。結果はミーティングで報告し、プロセスでの気づきを話し合い、改善に向けての具体案の検討や実践に繋げサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に関しては平成18年9月から早々に開催している。メンバーは老人クラブの方(自治会及び地域の代表)、民生委員、市の介護相談員、地区社会福祉協議会の方、ご利用者及びご利用者のご家族それにホーム関係者である。運営推進会議の意義については、メンバー個々が背負っているバックグラウンドとの連携と活用であると捉え推進して来た。例えば老人クラブでは、仲間が集まって見学に来てくれたところから会員のボランティアに発展して来られている。一方、地区社会福祉協議会の参加メンバーの方はその方の個人の楽団活動の発表の場としてホームに来て頂く等である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は比較的良く訪問してくれている。ホームサイドでも行事参加の呼びかけ、ケアプラン・モニタリングの連絡、月々の現金出納帳の承認依頼(承認には必ずご家族にホームに来ていただくようにしている)、日常の健康状態の報告、医療機関への送迎・同行のお願い、衣料品等身の回りの物の持ち込み、持ち出し等を通じ職員と家族の接触の機会を意図的・多面的に作り出し、コミュニケーションの確保に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>藤沢市のグループホーム連絡会に参加している。葡萄畑主催でバーベキュー大会を近所の方、ご家族を招いて行い好評であった。中学校の体験学習、新任教員研修、福祉学校の現場実習を受け入れている。自治会に加入し盆踊り等の行事に参加している。ボランティアには施設長と同じ大学のOBが結成したギタークラブが来て演奏してくれるのを始めとして童謡、フラワーアレンジメントなどのボランティアが来て一緒に楽しんでくれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム自体を家庭生活の延長と捉え、職員はもちろん、ホームにかかわる全ての人さらには利用者同士でさえもがそれぞれの地域的属性を抱えていることを常に意識し、その中での地域生活の維持・関係性の構築に力を注いでいる。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや月1回の業務会議などで積極的に話し合い、具体的な取り組みについて意見の統一を図っている。特に職員の入れ替わりがある時は丁寧なフォローを心がけている。社会状況の変化に対し不断の注意を向けながら、常に理念の検証・創造を続けてゆきたい。	○	今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の盆踊りやお祭りに参加、又近隣の中学校からの新任教員研修や生徒の社会体験学習の受入れを行っている。中学校のOB回の行事に参加する事もある。ホーム主催のコンサート(年2回)や夏のバーベキュー大会に自治会の役員や地域のボランティアをお招きし交流の幅を広げるようにしている。	○	地区の運動会、また老人会や幼稚園、小学校への行事参加なども考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行いサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げる為の努力をしている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義については、メンバー個々が背負っているバックグラウンドとの連携と活用であると捉え推進して来た。会議で取り上げられた質問・意見・要望を職員全員で話し合い改善に向け検討し、内容は次回の推進会議で経過を報告し委員の方の意見を伺う様にしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へは機会ある毎に足を運び状況報告や意見交換を行っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	さまざまな機会を意識して設け、その折に日々の様子と変化等を報告している。月に1回の小遣い出納帳の承認は必ずご家族にホームに来ていただくようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事参加への呼びかけ、ケアプラン・モニタリングの連絡、月々の現金出納帳の承認依頼、日常の健康状態の報告、衣類等身の回り品の持ち込み持ち出し等を通じ、管理者・職員と家族の接触の機会を意図的・多面的に作り出し、コミュニケーションの確保に努めている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームでは1ユニットなので基本的に異動はない。離職や新規採用で職員が変わる場合には、シフトでベテランと新人の組み合わせをする様に努力し、チームケアで対応し、利用者へのダメージは無いようにしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各種研修について積極的に参加を勧めている。受講者は受講後研修内容を業務会議で報告(文書でも提出)し、職員全員で情報を共有するよう努めている。	○	外部講師の依頼を考えている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者や職員の仕事に厚味を加えると同時にホームの円滑な運営に資するとの認識のもとにあらゆる機会をとらえ積極的に対応している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得した上での入居というのはほとんどないので、まず第一に職員との関係が大事だと認識から、利用者の話しに耳を傾ける事から始め、食卓テーブルの座る位置など他の利用者との関係などにも細心の注意を払うようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と食事の支度・掃除・レクをしながら一日を共に過ごし、できる事はやって頂き、できない部分のフォローをしながら職員と利用者で日々の生活を築いている。生活の中で利用者から教えられることも多い。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと出来るだけ会話をし、返ってくる言葉や表情などからその時々思いや希望を把握するよう努めている。食事については特に気を使っており、本人の希望をできるだけかなえるよう努力している。入浴も本人の意向を最大限尊重している。訴えたいこと、話したいことがある方には正式にキチンとうけとめるようにしている。	○	今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いをその都度確認している。また、気づいたことや意見があればいつでも聞き介護計画に反映している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月でケアプランをたてているが、2ヶ月ごとに変化のチェックを行い必要ならば作成しなおしている。特に大きな変化がなければ6ヶ月ごとに本人・家族の要望を確認し、モニタリングの後作成しなおしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等家族が行かれない場合はホームで対応している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの提携医療機関の医師に定期的に往診してもらい入居者の健康管理をしている。医師に対する入居者の信頼は厚く生活面でよい影響がある。医療連携体制の認可を受けている。		今後も充分相談しつつ実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者一人ひとりについて、業務会議等で今後の方向性としての話し合いを行っている段階。		今後も充分相談しつつ実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	過度の声掛けはせず誘導の際等、利用者を傷つけてしまわないようにさりげない言葉掛けや対応に配慮している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	さまざまな活動や生活行動(入浴、睡眠など)は本人の思いを大切に、柔軟に対応している。	○	よりいっそうの柔軟さを追求したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを最大限配慮しながらメニュー内容により個別に対応している。利用者と職員が共に準備、配膳、後片付けをしている。	○	よりいっそうの協働を考えたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一対一の対応で残存機能を生かし、着替えを用意するところからゆっくり援助、入浴温度や時間は一人ひとりの希望や状態にあわせている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意だったこと(料理、縫い物)を日常の活動に取り入れ、励ましや感謝の言葉かけにより積極的な気持ちを持っていただくようにしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩票(外出票)をつくり積極的な外出を心がけている。	○	近隣のボランティアを募り外出の回数を増やして行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員に気づかれないように家に帰ろうとする利用者がおられるので、見守り体制が不十分の時には玄関ホールの鍵を掛けることもあるが、そのことによる閉塞感を感じないように努めると同時に落ち着いておられる時には大きく開放している。	○	業務会議で鍵を常時ははずしておくかどうか毎回検討している。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1回、事業所内の避難訓練を行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや体重の増減に注意を払いながら食事の質・量を一人ひとり調整している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、台所を一体的に配置し、五感への働きかけを重層的に行っている。季節の花は常に他やさず季節感を失わないように演出している。晴れた日にはカーテンを開け、外の天気や木々の様子が居ながらに見えるようにし、テーブルにはいつも花がある。入居者が共用するものが少し雑然と置かれていたり、それをまた誰かがかた付けたりしている、ごく普通の家庭風景がある。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居して日の浅い方ほどなじみのものを持ってきてもらうようにし、自分の部屋との認識を早く持ってもらうようにしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

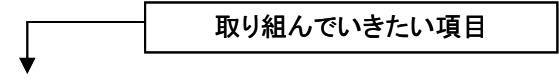
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム葡萄畑
所在地 (県・市町村名)	神奈川県藤沢市辻堂新町2-12-34
記入者名 (管理者)	佐藤 真弓
記入日	平成 19年 11月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム自体を家庭生活の延長と捉え、職員はもちろん、ホームにかかわる全ての人さらには利用者同士でさえもがそれぞれの地域的属性を抱えていることを常に意識し、その中での地域生活の維持・関係性の構築に力を注いでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや月1回の業務会議などで積極的に話し合い、具体的な取り組みについて意見の統一を図っている。特に職員の入れ替わりがある時は丁寧なフォローを心がけている。	○	社会状況の変化に対し不断の注意を向けながら、常に理念の検証・創造を続けてゆきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には入居時や訪問時に繰り返し伝え、地域の方には集まりやイベント参加時に事業所の実践を伝える様にしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の商店(クリーニング店、青物店、喫茶店、薬局等)を利用したり、公園などで積極的に会話の機会を持つなどして近隣住民とのコミュニケーションを深めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の盆踊りやお祭りに参加、又近隣の中学校からの新任教員研修や生徒の社会体験学習の受入れを行っている。中学校のOB回の行事に参加する事もある。ホーム主催のコンサート(年2回)や夏のバーベキュー大会に自治会の役員や地域のボランティアをお招きし交流の幅を広げるようにしている。	○	地区の運動会、また老人会や幼稚園、小学校への行事参加なども考えている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	①傾聴ボランティア研修の現地研修受入先として人材育成に協力している。②地域主催の福祉フェアに毎年参加している。③近隣に住む職員も多く、それぞれが個別にボランティアをしたり相談を受けたりしている。	○	職場で得た知識や経験を発信する場所をさらに地域に求めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行いサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げる為の努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた質問・意見・要望を職員全員で話し合い改善に向け検討し、内容は次回の推進会議で経過を報告し委員の方の意見を伺う様にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へは機会ある毎に足を運び状況報告や意見交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修はその都度職員に周知、できるだけ参加する様に勧めている。	○	ホーム内で勉強会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の条文にまで踏み込む事はないが、毎日の業務会議には必ず話し合うことにしている。	○	ホーム内で勉強会を持ちたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については事前に十分説明し、尚且つ契約・解約の際には一字一句声を出して読み上げ完全に理解して頂ける様にしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『相談・苦情は直接ホームに伝えて頂くのが一番良い』との考えのもとで、日常的に入居者とのコミュニケーションを密にするよう努力している。不安が強いときは一対一の対応をする。特別な訴えは施設長と管理者が同席の上、正式に聴取し、しかるべき措置をとる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	さまざまな機会を意識して設け、その折に日々の様子と変化等を報告している。月に1回の小遣い出納帳の承認は必ずご家族にホームに来ていただくようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事参加への呼びかけ、ケアプラン・モニタリングの連絡、月々の現金出納帳の承認依頼、日常の健康状態の報告、衣類等身の回り品の持ち込み持ち出し等を通じ、管理者・職員と家族の接触の機会を意図的・多面的に作り出し、コミュニケーションの確保に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議はもちろんのこと日常的に自由に意見を言い合える状況を作る努力をし、会議以外でも一人ひとりの職員の意見を聞き、運営に反映させる事ができるようにしている。勤務体制やシフト希望から日常のケアのあり方、物品購入にいたるまで職員の意見を丁寧に聞き、適切な対応をとるよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常時入居者の必要に合わせてのローテーションを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームでは1ユニットなので基本的に異動はない。離職や新規採用で職員が変わる場合には、シフトでベテランと新人の組み合わせをする様に努力している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の各種研修について積極的に参加を勧めている。受講者は受講後研修内容を業務会議で報告(文書でも提出)し、職員全員で情報を共有するよう努めている。</p>	○	外部講師の依頼を考えている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は管理者や職員の仕事に厚味を加えると同時にホームの円滑な運営に資するとの認識のもとにあらゆる機会をとらえ積極的に対応している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの早期発見と職員との日ごろのコミュニケーションがストレスの進行を防ぐ最大の武器と思い、常に注意を怠らないようにしている</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者や一人ひとりの職員に時折声をかけ、それぞれの思いをつねに把握するよう努めている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>きちんとした話し合いや気楽な会話、言葉にならない思いなど全てをとおしてご本人の気持ちを受け止めるよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前及び入居後も1度ならず2度、3度継続的に連絡を蜜に取り、どんな小さな事でも情報として共有している。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談者の状況を的確に掴み、各種サービスについて説明をし問題解決の為に提案を行っている。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得した上での入居というのはほとんどないので、まず第一に職員との関係が大事だと認識から、利用者の話しに耳を傾ける事から始め、食卓テーブルの座る位置など他の利用者との関係などにも細心の注意を払うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と食事の支度・掃除・レクをしながら一日を共に過ごし、できる事はやって頂き、できない部分のフォローをしながら職員と利用者で日々の生活を築いている。生活の中で利用者から教えられることも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者のリハビリをご家族がおやりになるときは共に見守り楽しむ。又、ご家族がボランティアとしてピアノを弾いてくれたりプランターで作っている野菜の育て方を教えてくれたりするなど家族と職員の一体感は心地よい。ご家族が他の利用者の方に声をかけていただく風景もほほえましい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来るだけ多く接触の機会を設け、関係が疎遠になることを避ける様にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば、以前コーラスをしていた方には月一度『童謡の会』を行い、友人にボランティアとして訪問していただくなどそれまでの関係が継続していける様にしている。居室の壁に思い出の写真を貼る方も多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が生活の細部に渡って助け合ったり気遣っているが、それをあたたかく見守ると同時にそれが継続できる様に配慮している。ゲームや体操は全員参加で行っている。食事時の席替えもタイミングを見計らい行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気入院のためサービス契約が終了した方は退院後のケアについてもできる限りの支援をしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと出来るだけ会話をし、返ってくる言葉や表情などからその時々思いや希望を把握するよう努めている。食事については特に気を使っており、本人の希望をできるだけかなえるよう努力している。入浴も本人の意向を最大限尊重している。	○	訴えたいこと、話したいことがある方には正式にキッチンとうけとめるようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者から初めに伺った内容にとらわれず幅広い働きかけによって、家族の知らない好みや趣味、こだわりを知るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者のケース記録に小さな変化や具体的な言葉も記入する様にし、毎日の申し送りや会議等を通じて情報を共有している。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いをその都度確認している。また、気づいたことや意見があればいつでも聞き介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月でケアプランをたてているが、2ヶ月ごとに変化のチェックを行い必要ならば作成しなおしている。特に大きな変化がなければ6ヶ月ごとに本人・家族の要望を確認し、モニタリングの後作成しなおしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には健康面のチェック、生活状態(家事、活動)の様子、変化や注意すべきこと、気づきを書いている。ケース毎の様子を細やかに知り、ケアプランを立て実践に取り組んでいる。記録様式を記入しやすいよう、また変化などをとらえやすいように普段の改善につとめている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等家族が行かれない場合はホームで対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方との協働が少しづつ具体的な形になってきている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	美容・外出サービスは利用しているが、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との接触はあまりない。	○	今後の課題だ。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関係はこれまでのところ入居相談だけ。	○	今後の課題だ。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの提携医療機関の医師に定期的に往診してもらい入居者の健康管理をしている。医師に対する入居者の信頼は厚く生活面でよい影響がある。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提供医療機関(藤沢御所見病院・勝俣内科医院)を積極的に活用している。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。	○	一人ひとりの利用者に対する健康管理をもう少し丁寧にやりたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院から退院時のプロセスのなかで医療関係者と適宜情報交換し、利用者の身体状態の把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者一人ひとりについて、業務会議等で今後の方向性としての話し合いを行っている段階。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者、家族の希望にそって定期的に状況判断し対応しているが現在重度化に備え提携医療機関・看護師らと来るべき日に備え取り組みの検討を始めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	会話を重ね信頼感を醸成することに力を入れている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	過度の声掛けはせず誘導の際等、利用者を傷つけてしまわないようにさりげない言葉掛けや対応に配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望については具体的に例を挙げて聞いている。また、実施できたときには「できてよかったですね」と、思いが実現したことを確認してもらっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	さまざまな活動や生活行動(入浴、睡眠など)は本人の思いを大切に、柔軟に対応している。	○	よりいっそうの柔軟さを追求したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容は本人、家族が望むあようにしている。服装やアクセサリは本人が選ぶか納得してもらったものをつけてもらっている。毎朝整容に気をつけるよう声掛け、援助をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを最大限配慮しながらメニュー内容により個別に対応している。利用者と職員が共に準備、配膳、後片付けをしている。	○	よりいっそうの協働を考えたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝食や3時のお茶のときなど好みの飲み物を用意している。食べたいお菓子、アイスクリームなど個別に用意することもある。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートにより利用者の排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導を行い失禁による気持ちの負担を軽減している。トイレの清掃には気を配り、便座はウォッシュレットで臭いや衛生面での配慮を欠かさないようにしている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一対一の対応で残存機能を生かし、着替えを用意するところからゆっくり援助、入浴温度や時間は一人ひとりの希望や状態にあわせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	掛け布団の枚数、枕の位置、冷え性など一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。休息の時間・場所は自由にしていく。居室以外にも和室、ソファなど休息場所を用意し、ソファには常に上掛けを用意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意だったこと(料理、縫い物)を日常の活動に取り入れ、励ましや感謝の言葉かけにより積極的な気持ちを持っていた。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の所持が本人の安心につながる場合は持っていてほしい。(金額については把握しておく)。買い物の際支払いが可能な方は本人にしてもらう。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩票(外出票)をつくり積極的な外出を心がけている。	○	近隣のボランティアを募り外出の回数を増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回、春と秋に近隣へ外食をかねた小旅行を行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じていつでも電話や手紙を出せるようにしている。	○	もっと積極的に外部とつながれるような支援を工夫したい。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来られる様な雰囲気作りを心がけている。家族、知人の訪問は大歓迎。訪問時間の制限はない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については業務会議で毎回議題に出し、その意味を繰り返し共有するよう努めている。	○	職員に法律の条文にも親しむよう勧める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員に気づかれないように家に帰ろうとする利用者がおられるので、見守り体制が不十分な時には玄関ホールの鍵を掛けることもあるがそのことによる閉塞感を感じないように努めると同時に落ち着いておられる時には大きく開放している。	○	業務会議で鍵を常時はずしておくかどうか毎回検討している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必要と思われる方の居室にはセンサーをつけ、センサーが鳴ればすぐに駆けつける。立位不安定な方が日中自室に戻られるときは必ず職員が付き添うなどして安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、包丁、針、アイロン等でも使える方には使ってもらっている。ただし、使用後はホームで管理している。薬も職員が管理。薬品類は鍵のかかる収納場所にしまっている。コンロはガスでなくIHを使用。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を常時確認、十分な注意を払っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルは分かりやすい場所に掲示してある。	○	今後職員全員を対象とした講習を受けたいと思っている。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1回、事業所内の避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られる様に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日に二度のバイタルチェック、排泄や食事量のチェックの他言動や活動の変化にも気をつけている。情報は引継ぎや連絡ノートを通し共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を利用者毎にファイルに整理し職員が内容を把握しながら一人ひとりの状態の変化をチェックしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服用できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や運動で自然に排便できる様取り組んでいるがそれでも排便のない方は医師の指示により下剤を使用している。口腔内も清潔さを保つよう心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、力に応じたハミガキの手伝いをしている。義歯もきちんと洗浄している。	○	朝夕は全員に口腔ケアをしていただくが昼食後はその習慣がない方が多い。今後は昼食後も口をすすぐだけでもやっていただくようにしたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや体重の増減に注意を払いながら食事の質・量を一人ひとり調整している。		
	○感染症予防	来訪者の方や外出後には手洗い・うがいを励行している。ト		

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレ等の掃除には除菌または殺菌のできる洗剤を使用している。ノロウイルス等の感染マニュアルも手の届くところに用意しており、職員で予防・対策に努め、インフルエンザの予防接種は利用者・職員ともに受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎日・定期的に消毒し、生鮮食料品は買いだめせず毎日新鮮なものを購入している。また、冷蔵庫や冷凍庫に保管している食材も頻繁に点検している。賞味期限切れのものは捨てる。		

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように生花や観葉植物を絶やさないようにしている。また、安心して楽に靴の履き替えができる様に収納式の腰掛も設けている。建物内にもあちこちに切花や植木鉢を置き、ほっとする雰囲気になるようにつとめている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、台所を一体的に配置し、五感への働きかけを重層的に行っている。季節の花は常に他やさず季節感を失わないように演出している。晴れた日にはカーテンを開け、外の天気や木々の様子が居ながらに見えるようにし、テーブルにはいつも花がある。入居者が共用するものが少し雑然と置かれていたり、それをまた誰かがかた付けたりしている、ごく普通の家庭風景がある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはベンチ、1Fのウッドデッキにはパティオチェアを置きくつろげるスペースを作っている。特にリビングに置いた2つのソファはごく自然にそれぞれの思い思いの場所になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居して日の浅い方ほどなじみのものを持ってきてもらうようにし、自分の部屋との認識を早く持ってもらうようにしている。		
	○換気・空調の配慮	△館内24時間換気装置を付けているほか、起床後にはできるが		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>全期、24時間換気装置を付けているほか起床後にこまめに窓を開けはなち、午前中の掃除終了後は夏冬は窓を閉めエアコンで温度調節をしている。トイレ清掃を徹底するなど「臭い」対策にも気を使っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>要所に手すりを設置している。わずかな段差や家具の配置等生活空間で転倒につながらないように工夫している。洗面台は車椅子の方にも使いやすいように作ってある。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ゆっくり易しい言葉で話すよう努めている。新しい方が入居されたときはトイレ・階段など要所に張り紙をしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダでの洗濯物干し、日向ぼっこ。庭にはパティオ家具が置いてあり天気の良い日には昼食を楽しんだりする。プラントナーでの野菜や花卉栽培も自由に行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりの個性に合った決め細やかなサービスに努めている。